**第2章　事後学習ワークシート**

1. 第2章で学んだことを復習しよう。次の(　)に当てはまる用語を解答欄に記入してみよう。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **No**. | **問題** | **解答** |
| 1 | 子どもの発達は,ある段階を抜かして発達するということはなく一定の（　　　　）性がある。例えば運動面でいうと首すわりができた後は寝返り,一人で座る,はいはい,つかまり立ち,一人で立つ,歩くのように一つずつ段階を経ていく。 |  |
| 2 | 子どもの発達は一定の方向性があり,特に身体や運動に関しては3つの法則がある。  一つは，頭部から（ a.　　　　　）へと向かって発達する。二つ目は,中心(体幹)から（ b.　　　　　）へと向かって発達する。三つめは,粗大運動から（ c.　　　　　）運動へと発達する。 | a.  b.  c. |
| 3 | フロイトは,人間の自我の発達の観点から5つの発達段階を唱えた。  0～1歳頃の授乳や指のおしゃぶりをする時期を（ a.　　　　　　）期とした。1～3歳頃のトイレットトレーニングをする時期を（ b.　　　　　　）期とした。4・5歳頃の性に関する意識・識別をするようになる時期を  （ c.　　　　　または　　　　　　　　）期とした。学童期頃の衝動が学習やスポーツに向けられ社会性が身につく時期を（ d.　　　　　）期とした。12歳以降の青年期頃の心理的に自立する時期を（ e.　　　　　　）期とした。 | a.  b.  c.  d.  e. |
| 4 | ピアジェの認知発達理論では，認知の発達を（ a.　　　　　）と（ b.　　　　　）という2つの働きによって，子どもが世界を認識するための枠組みである（ c.　　　　　　）を変化させていくプロセスと考えた。 | a.  b.  c. |
| 5 | ピアジェの認知発達理論の，前操作期には前概念的思考と（　　　　　　）思考の2つがある。 |  |
| 6 | ピアジェの認知発達理論の中で，どのようなものにも命や意思があると考える時期があり，そのような思考のことを（　　　　　　　）という。 |  |
| 7 | 生涯発違に関する，エリクソンの心理社会的発達理論の中で，乳児期(0～1歳)における心理社会的課題は(　　　　VS.　　　　)である。 |  |
| 8 | 生涯発違に関する，エリクソンの心理社会的発達理論の中で，幼児前期(2～3歳)における心理社会的課題は(　　　　VS.　　　　)である。 |  |
| 9 | 生涯発違に関する，エリクソンの心理社会的発達理論の中で，幼児後期(3～6歳)における心理社会的課題は(　　　　VS.　　　　)である。 |  |

1. 子どもの発達について学び，保育を展開する保育者として大事な視点はどのようなことだろうか？　(事前学習ワークシート(3)で記入した学習前の自分の考えと，今回学習後の自分の考えとの差異でも構わない)

|  |
| --- |
|  |